

くろうと むろいしげる たんけん  
**「玄人ですものー室井滋のオシゴト探検ー」 281 ㈬**  
 むろいしげるちよ ちゅうおうこうろんしんしゃ  
 室井滋著 中央公論新社

女優の室井滋がいろいろな職業の人にとって対談しました。世の中にはこんなに素晴らしい仕事がたくさんあり、それにたずさわっている人のほとんどが、子どもの頃からその種をみつけていたんだ! ということに驚かされます。あなたの種も、みつかるとは思いません。



こどものためのとしょかんだより

逗子市立図書館 2018年(平成30年)1月1日発行 vol.18

**マーメイドくらぶ**

YA版

逗子市逗子 4-2-10 046(871)5998 (電話案内サービス)

<https://www.library.city.zushi.lg.jp>



おとな しごと す しごと にん  
**「大人になったらしたい仕事ー「好き」を仕事にした 35人の先輩たちー」 YA 36 オ**  
 せんぱい  
 あさひちゅうこうせいしんぶんへんしゅうぶへん あさひがくせいしんぶんしゃ  
 朝日中高生新聞編集部編 朝日学生新聞社

自分の好きなコトや夢が仕事に結びつくのが理想ですよね。この本ではそれぞれの「好き」を仕事にした人 35人にインタビューし、その仕事の魅力を探りました。好き→仕事にする人もいれば、仕事→好きになる人だっています。

こくさい ほしのまさこ  
**「国際ボランティア星野昌子」 28 ホ**  
 おぎやまゆみこちよ りろんしゃ  
 杉山由美子著 理論社

星野昌子さんは1965年、初の青年海外協力隊員として活動し、その後NGOの活動を切り開いてきた方です。今こそNGOやボランティア活動が社会の中に根付いてきましたが50年前はどうだったのでしょうか。何がきっかけで、どんな思いで活動を続けられたのでしょうか。



**働くって  
 どういうこと !?**

仕事って何のためにするの?  
 働くことを考える、中学生・高校生  
 オススメの14冊をご紹介します。

『マーメイドくらぶ』って・・・?

『マーメイドくらぶ』は、子ども版とYA(ヤングアダルト)版を3か月毎に交互に発行しています。テーマごとの本の紹介や図書館からのお知らせなど、図書館と本に関する情報をできるだけたくさんお届けします。

せいこう かいがい じぶん せかい  
**「成功する海外ボランティア21のケースー自分と世界が  
 ハッピーになる!ー」 YA 33 セ「地球の歩き方」編集部**  
 かいがい ちよさくへんしゅう しゃ  
 (海外ボランティアテス) 著作編集 ダイヤモンド・ビッグ社

海外ボランティアに実際に参加した人たちの貴重な体験談は、あなたの将来の夢へ刺激を与えてくれるでしょう。「なんだか難しそう」だけど、一歩踏み出すチャンスを与えてくれる一冊です。





「ルリユールおじさん」YAE いせひで<sup>さく こうだんしゃ</sup>作 講談社  
 ルリユールとはフランス語で「製本職人」のことです。大切にしていた植物図鑑がこわれてしまい、女の子はルリユールをさがします。本に新たないのちをふきこむルリユールおじさんとの出会いは、女の子の未来へとつながっていきます。

「車夫」YA 91.3 <sup>しゃる</sup>いとうみく<sup>さく こみねしよてん</sup>作 小峰書店  
 17歳の走(そう)は高校を中退し、浅草で人力車の車夫になりました。お客さんや仕事仲間との出会いを通じて、傷ついた走の心がほぐれていきます。車夫の足音が軽やかに駆け抜けるようなさわやかな読後感。つづきもあります。



「お話を運んだ馬」92 <sup>はなし はこ うま</sup>シ  
<sup>さく くだうゆきおやく いわなみしよてん</sup>I.B.シンガー<sup>さく</sup>作 工藤幸雄<sup>い</sup>訳 岩波書店  
 お話が大好きなナフタリ。愛馬に本を積んで町や村を旅して、本を売ったり、聞いた話や自分で作った話を子どもたちに聞かせてまわりました。「お金のためではなく愛の心から自分の仕事をする」ことの尊さを教えてくれます。他に7編のお話がおさめられています。



「神去なあなあ日常」F <sup>かむさり にちじょう みうら ちよ とくましよてん</sup>ミ 三浦しん<sup>さく</sup>著 徳間書店  
 高校卒業までアルバイトをしていた勇氣は、フリーターになろうと考えていましたが、担任と母親が勝手に就職先を決めてきてしまいます。神去村で林業研修生となった勇氣は、刻々と表情を変える自然の中で、働くことを楽しむ村の人々に振りまわされながらも、次第に根をおろしていきます。



「和菓子のアン」F <sup>わがし さかきつかさちよ こうぶんしゃ</sup>＃ 坂本司<sup>さく</sup>著 光文社  
 和菓子店「みつ屋」で働き始めた梅本杏子(通称アンちゃん)は、おいしいものが大好きな18歳の女の子。个性的すぎる店長や同僚たちに囲まれながら、歴史と遊び心に満ちた和菓子の魅力に目覚めていきます。



「あこがれ仕事百科」YA 36 <sup>しごとひゃっか</sup>ア <sup>だい せいさくはんへん じつぎょうのにほんしゃ</sup>7  
 NHK ラジオ第1「きらい10代!」制作班編 実業之日本社  
 「あこがれの仕事」についている若い仕事人79人から、10代の子どもたちへのメッセージが詰まった本です。どの人も、好きなことは何かを突き詰めていった結果、その仕事を見つたと語っています。79人の生き方を知ることができます。

「働く」ために必要なこと - 就労不安定にならないために - <sup>はたら ひつよう しゅうろうふあんてい</sup>  
<sup>しながわゆかちよ ちくましほう</sup>M 36 <sup>さく</sup>シ 品川裕香<sup>しんしや</sup>著 筑摩書房  
 働き始めたのにすぐに辞めてしまう若者たち。彼らを取材してきた著者が、数々の実例をもとに「自立した社会人」になるための術を紹介します。



「しごとば」36 <sup>すずき さく しんしや</sup>ス 鈴木のりたけ<sup>しんしや</sup>作 フロンズ新社  
 世の中にはホントにいろいろな仕事があるんですね。綿密な取材をもとに実際の「しごとば」にあるものが丹念に描かれています。現場を見ると仕事の中身も見えてくる! シリーズ5冊あります。

「つむじ風食堂と僕」M 91.3 <sup>かせしよくどう ぼく よしだあつひろちよ ちくましほう</sup>ヨ 吉田篤弘<sup>ちくましほう</sup>著 筑摩書房  
 少年リツ君は、つむじ風食堂でご飯を食べながら、大人たちに「仕事は何ですか」と聞きます。文房具屋さん、肉屋さん、ダンサー、コンビニ店員…みんなうれしそうに語ります。生き方に誇りを持っている大人たちってカッコいいな。そんなことを思える小説です。



「古くて新しい椅子 - イタリアの家具のしゅうりの話 -」58 <sup>ふる あたら いす かく はなし</sup>＋  
<sup>なかしまひろあぶん ふくいんかんしよてん</sup>中嶋浩郎<sup>さく</sup>文 パオラ・ポルディーニ<sup>え</sup>二絵 福音館書店  
 100年も前のボロボロになったつくえと椅子が新品のようにピカピカに修理されていく様子が描かれています。修理するのは、イタリアフィレンツェの職人たち。一度分解して組みなおす、引き出しの古い金具と同じもの新たに作る、椅子の座面のワラの張り方を考える…。職人という働き方に興味がわく一冊です。